

紀尾井だより

3/4 March / April 2024 [Vol.164]

紀尾井 明日への扉 2024年度

水野 斗希 (コントラバス)

平野 友葵 (ヴァイオリン)

井上 玲 (リコーダー)

トリオ・エクス (ピアノ三重奏)

インタビュー

山彦千子さんに聞く「河東節の魅力と楽しみ」

連載

歌舞伎をめぐる音楽のことごと 第六回

歌舞伎と竹本

クラシック音楽のテーマに基づく3つの話

ショパンをめぐる3話



平野友葵

ヴァイオリン



水野斗希

コントラバス



トリオ・エクス

ピアノ三重奏



井上玲

リコーダー



紀尾井ホールが創立時から活動の柱のひとつとしているのが若手の支援と育成。その一環として、かつてはプロミシング・アーティスト・シリーズ、次いでニュー・アーティスト・シリーズと銘打ち、将来の活躍が大きく期待される若い演奏家をフィーチャーし、広く世に紹介してきました。このニュー・アーティスト・シリーズを継承し、2013年より独自の着眼点・紀尾井ホールならではの視点で若き才能を見出そうとスタートした『紀尾井 明日への扉』シリーズも、はや10年が経ちました。2024年度には登場するアーティストの数も実に40を超えることとなります。話題性に左右されず、「価値ある才能を埋もれさせない」「伸びつつある才能を後押しする」ことを主眼とする『明日への扉』らしく、2024年度も多彩な顔触れです。早速ご紹介しましょう。

まず6月は**コントラバスの水野斗希**。この楽器によるリサイタルは当シリーズ初となります。大学1年生で都内のオーケストラの客演首席を任された経験もあり、さらに2023年7月の紀尾井ホール



三菱地所 presents

紀尾井
明日への扉

室内管弦楽団の定期演奏会にエキストラとして抜擢されたように、その腕はすでに折り紙付き。コントラバスという楽器の物理的巨大量に、「果敢に」という段階を超え、余裕を持って接し、フレージングを活かしたふくよかな音楽を引き出すことのできる逸材です。当公演に出演が決まった数か月後には第21回東京音楽コンクールの弦楽部門に出演。そこでも作品のニュアンスを濃密に表現し、大学2年生にして同コンクール史上初となるコントラバスでの第1位受賞も果たしました。ドラゴネットイからピアノソラまでのコントラバスの新旧オリジナル作品に、ブラームスのクラリネット・ソナタ(！)で組んだプログラムに興味は尽きません。

続く7月は**ヴァイオリン**の**平野友葵**が、本公演をデビュー・リサイタルとして出演します。2020年の第89回日本音楽コンクール第2位をはじめ、第69回全日本学生音楽コンクール小学校の部全国大会や、第26、27回日本クラシック音楽コンクール小学校の部、中学校の部全国大会、第71回全日本学生音楽コンクール中学校の部全国大会など、これまで学生コンクールの総なめにしてきた彼女は2023年4月に紀尾井ホールで開催された桐朋学園2022年度高校卒業演奏会でもワックスマンの《カルメン幻想曲》を切れ味鋭い素晴らしいテクニックで聴かせました。現在は2023年秋からウィーンに留学し、次のフェーズに移ろうとしています。プログラムはグリーグにシマノフスキ、ショーンソンなど、今彼女が弾きたい曲を取り上げます。新天地ウィーンで音楽の構

成力を深め、一層成長した姿を聴かせてくれることでしょう。

12月は**リコーダー**の**井上玲**。この回では当シリーズ初というだけでなく、紀尾井ホールの主催公演としても初となるリコーダーを採り上げます。学生時代から国際古楽コンクール(山梨)で入賞を果たし、さらに2021年にドイツで開催された第11回テレマン国際古楽コンクールで第2位に輝くなど、コンクールでの実績も重ねています。リコーダーは多くの方が小学校で触れているにもかかわらず(あるいはむしろそのせいか)、また楽器の特性もあつて古典派・ロマン派の作曲家にオーケストラとのコンチェルトがほぼないことから、ピアノやヴァイオリンに比べると認知されにくい傾向がありますが、実際にはこの世界にはかつてのブリュッヘンやマンローウから、ベトリ、ファン・ハウヴェ、ブツケ、テミングや濱田芳通など名手が多数存在します。井上はそれを継ぐ最右翼のひとりです。

コレリとヘンデルを中心に据えた今回の知的でチャレンジングなプログラムは、井上の実力はもちろん、リコーダーの多彩で新鮮な魅力を(再)発見する機会となること請け合いです。

2025年2月は**ピアノ三重奏団**の**リオ・エクス**が「明日への扉」2024年度を締め括ります。メンバーの**リード希亜奈**(ピアノ)はソリストや室内楽奏者として、**友滝真由**(ヴァイオリン)と**藤原秀章**(チェロ)はソリストのほかにベルリン・フィルやドイツ・カンマーフィル、ベルリン放送交響

楽団などのアカデミー生として、すでに世界で活躍を始めています。それ以前にもリードと藤原は東京藝大の学生の頃からモーニングコンサートや藝大定期、コンクール、マスタークラスなどでもよく知られ、また友滝は2016年と19年の仙台国際音楽コンクールで技巧とエモーショナルのバランスが見事に合致した演奏を聴かせ高く評価されていました。この3名がベルリン留学で出会い結成したのがトリオ・エクス。2022年に結成したばかりの新生トリオですが、結成半年後にはリヨン国際音楽コンクールで第3位に入賞するなど、スタートも輝かしく、その後も着実に実績を重ねています。本公演は彼らのトリオとしての本格的な日本デビューとなり(プログラムはレベッカ・クラークとブラームスを中心に鋭意検討中です)。なおこの公演は2024年度紀尾井ホール企画のひとつ「ピアノ・トリオ・フェスティヴァル」の番外編でもあるので、こちらの視点からもぜひご注目ください(同フェスティヴァルについては次号の本誌でご紹介する予定です)。

文／松本 學(紀尾井ホール制作プロデューサー)

4公演セット券
好評販売中

第39回から第42回まで全4公演を同一座席でご鑑賞いただくセット券

4公演セット券

S席 10,000円 A席 2,000円
紀尾井ホールウェブチケットのみでお取扱い

各公演 単券

S席 3,000円 A席 500円
U29 S席 1,000円

第39回
水野 斗希(コントラバス)
Toki Mizuno

6/6
木
19:00

[共演] 小澤佳永(ピアノ)

[曲目]
フランツ・シェク・チェルニー：夜想曲と間奏曲
ミシェク：コントラバス・ソナタ第1番
ピアノソラ：キー・チョコ
ドラゴネットイ：12のワルツより第10番、第11番
ブラームス：クラリネット・ソナタ第2番変ホ長調

3,8[金] 正午発売

第40回
平野 友葵(ヴァイオリン)
Yuki Hirano

7/18
木
19:00

[共演] 開原由紀乃(ピアノ)

[曲目]
グリーグ：ヴァイオリン・ソナタ第3番ハ短調
ショーンソン：詩曲
バッハ：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第1番ト短調
シマノフスキ：ヴァイオリン・ソナタ ニ短調
ラヴェル：ツイガース

4,12[金] 正午発売

第41回
井上 玲(リコーダー)
Rei Inoue

12/12
木
19:00

[共演] 桑形亜樹子(チェンバロ)
森川麻子(ヴィオラ・ダ・ガンバ)

[曲目]
コレリ：ソナタ第1番ヘ長調
ヘンデル：ソナタ イ短調
コレリ：《ラ・フォリア》ト短調 ほか

8,30[金] 正午発売

第42回
トリオ・エクス(ピアノ三重奏)
Trio Ex

2025 2/27
木
19:00

[出演] リード希亜奈(ピアノ)
友滝真由(ヴァイオリン)
藤原秀章(チェロ)

[曲目]
レベッカ・クラーク：ピアノ三重奏曲
ブラームス：ピアノ三重奏曲第1番 ほか

11,8[金] 正午発売

※公演についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。協賛：三菱地所株式会社

山彦千子さんに聞く 「河東節の魅力と楽しみ」

江戸に生まれ、江戸で流行した河東節
3曲を堪能する「山彦千子をきく会」演
目について、河東節三味線方(人間国宝)
の山彦千子さんにうかがいました。



「今回演奏します『浮世傀儡師』『邯鄲』
『助六』は、以前に竹内道敬先生(日本近世
芸能研究者)が『河東節の代表曲といっ
たらこれですね』と挙げられた3曲です。
竹内先生の言葉がずっと頭にありまし
て、迷わずこの3曲を選びました。『助六
所縁江戸桜』は、十三代目市川團十郎白猿
さんの襲名披露公演(2022年歌舞伎

座、2023年南座)でも演奏いたしました
ので、そんなご縁もある演目です」

1曲目『浮世傀儡師』は、人形を動かし
歌ったり舞ったりする活人形(傀儡)で語
られる物語に、性格の異なる3人息子が
登場し、兄弟それぞれの特徴が浄瑠璃と
三味線で紹介されていきます。

「浄瑠璃と三味線とで丁々発止のやり
とりをして、上調子(高音)で演奏するパー
トも活躍する、とても面白い曲です。テン
ポや歯切れもよく、メリハリのあるところ
は河東節の魅力そのものですね」

続く『邯鄲』は「邯鄲の枕」という故事が
もとになっている演目で
す。盧生(ろせい)という名の若者
が、粟粥(あわ)ができるのを待
つ間、自分の望む夢が見
られると伝えられる「邯
鄲の枕」を使って寝たと
ころ、夢を見るという物
語。曲はその夢から始ま
ります。

「夢の中で盧生は、みる
みる出世して栄耀栄華を
きわめ、王位につきます。
宴で長寿のお酒を飲んで

賑やかに過ごすうちに、目まぐるしく50
年の月日が流れます。人生50年の時代で
すから、夢で一生が過ぎたことになりま
す。そのとき、粟粥が煮えたと女中に起こ
されます。夢が覚め、まだぼうっとしてい
る盧生は、ああ、夢だったのか……とだん
だん現実に戻っていきます。この夢と現実
の狭間のところがサビで、ここの上り
(第2弦が高い調子)の三味線が一番の聴
かせどころです」

一生分の夢を見て、人生は儚いもの、だ
からこそ今を精一杯生きることが大事、と
盧生は悟ります。この場面で涙するファン
も多い名曲です。

「聴かせどころは情景描写ですね。夢の
中の壮大な感じや夢が覚めたところのメ
リハリが表現できるよう演奏したいと思
います」

幕間に対談はささみ、公演の最後を飾
るのは、歌舞伎でもおなじみの『助六所縁
江戸桜』。市川團十郎家(成田屋)が演じる
際は、河東節が演奏を受け持つのが習わ
しとなっています。

「桜の季節の華やかさのある曲です。主
人公の助六はまだ十代ですから、曲に
若々しさがあります。河東節の『助六所縁
江戸桜』は大勢の素人の旦那衆が浄瑠璃
を担当しますので、迫力があってなかなか
のものです。歌舞伎の舞台をご覧になら
れた方でしたら、成田屋さんの踊る姿も
浮かぶのではないでしょう」

開幕の口上を受けて河東節の立三味線

の「ハオー」の掛け声で三味線と浄瑠璃が
始まり、出端(で)になって紫の鉢巻き姿の助
六が、目傘を開いて花道で見得を切る
シーンが浮かびそうです。

リズムカルで品のある河東節。その魅力
を改めて語っていただきました。

「江戸で生まれた浄瑠璃らしく、『宵越
しの金は持たない』と言われた江戸っ子気
質にも似た、スカっとしたところが魅力で
す。また、ユリ」と言われる、半音の間で音
が繊細に揺れる技法も河東節の特徴のひ
とつです。邯鄲の『夢覚めて』の『て』の
ユリや語尾の切り方などにもその特徴が
表れていて、五線譜では書き切れない、河
東節ならではの味わいがあります。生の演
奏から、江戸で生まれた音楽の魅力を感じ
取っていたら嬉しく思います」

河東節、珠玉のライブ。この貴重な公演
がますます楽しみになりました。

取材文／芹澤一美(音楽ライター)

江戸っ子の粋を現在に受け継ぐ 山彦千子をきく会

【出演】

山彦千子(三味線)
山彦花葉、山彦敦子(ほか(浄瑠璃))、
山彦季代乃、山彦まさ子(ほか(三味線))
河東節十寸見会御連中(演奏)
古川諒太(聞き手)

4/4
木
18:30

【曲目】

「浮世傀儡師」「邯鄲」、対談、「助六所縁江戸桜」

※公演についての最新情報は
紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

歌舞伎をめぐる

音楽のこゝろ

第六回

歌舞伎と竹本

歌舞伎の義太夫「竹本」

歌舞伎で義太夫を演奏する音楽家を「竹本」と呼んでいます。音楽とはまた違った技量が求められることをまず申し上げておきます。「熊谷陣屋」「一條大蔵譚」「実盛物語」などには、主人公が昔語りをする「物語」という場面があります。原曲は人形浄瑠璃と同じですが、俳優がセリフを言ったり動いたりするので、しぜん間合いが違い、節付けも違ったりします。また「伽羅先代萩」や「本朝廿四孝」などには女方が感情を吐露する「くどき」という場面があります。ソプラノのARIAのような見せ場です。「伽羅先代萩」の御殿では、忠義に殉じた我が子の亡骸を前に政岡が慟哭し、「本朝廿四孝」の八重垣姫は恋人の武田勝頼に切々と恋心を訴えます。見得をしたり、ちよつと決まつたり、竹本は常

に俳優が光り輝くようにイキを合わせて演奏します。

「ポテチン」の妙味

「くどき」の中で三味線の曲節から「ポテチン」と通称される演技があります。三味線の擬音化ですが、その曲節で俳優はおこつきからだのバランスを崩して一瞬のめり、すぐにひとつ決まって見せる演技です。政岡ならば「武士の胤にうまれは果報か」「因果か」「いじらしや…」のおしまいにあります。音楽にはない竹本独特の技巧で、三味線奏者は俳優のからだを注視して弾きます。俳優と竹本が阿吽の呼吸で「ポテチン」をし、演技の大きなアクセントとなつて舞台が燃えさかるのが理想で、大きなヤマを築きます。ただしオーヴァーな「ポテチン」は品を失いかねません。

「床のメリヤス」の技巧

俳優がセリフを言うあいだ、三味線が伴奏する「床のメリヤス（略称床メリ）」も技芸が要ります。舞台上で義太夫を演奏する場所が「床」、そこで弾くので「床のメリヤス」です。「メリヤス」の名は伸縮性のある布地からきています。セリフに合わせて決められた旋律を弾きますが自在な技が求められます。主人公の述懐のあいだ絶妙なヴォリュームで弾きつないでゆ

くのは、オペラのレチタティーヴォ（ARIAの前のセリフに近い歌唱）で弾かれるチェンバロや、二十世紀初頭にヴァイオリンのクライスラーやエルマンがやつた大歌手のオブリガート演奏（巧みな即興伴奏）に似ています。「伽羅先代萩」では、政岡が幼君にお家の危急存亡の時を話す「よう、お聞き遊ばせや」というセリフがきっかけ（スタート）で、チン、リンリン、チチ、ツン、ツツ、テン…と弾かれ、兄弟が敵味方となる「盛綱陣屋」では、盛綱が年老いた母親に甥（敵対する弟の子）を切腹させるよう頼む悲痛な場面で「サササ、その殺すなとの（主君北条時政の）御状（命令）ゆえ、なおもつて、殺さばなりませぬ」でゾドン、チン、リン…と床メリが奏されます。床メリは100曲以上あると言われています。

総合芸術には不可欠

太夫も三味線も、原曲の義太夫節と歌舞伎用アレンジされた「竹本」の両方を知らないとい務まりません。俳優によっては演じる「型（演出台本）」が違つるので、竹本演奏家は歌舞伎俳優の「型」も熟知していないといけません。同じ芝居でも時にはまるで歌詞や三味線の手が違つたのです。



床で演奏する竹本英太夫、鶴澤宏太郎両師。

近松の不朽の名作「俊寛」。歌舞伎では「思い切つても凡夫心…でひとり島に残った俊寛が花道へゆくと舞台が反時計まわりに回り始め、やがて大海原に大きな岩ひとつになります。誘うは己が友千鳥：渾身の竹本演奏で俊寛が岩を登ります。この間、歌舞伎座ならば35秒。文字通り大道具と竹本、そして波音が俳優を輝かせます。竹本は、黒御簾と並んで総合芸術の歌舞伎には必須の音楽です。

文／岡崎哲也（松竹株式会社常務取締役／東京交響楽団理事長）

クラシック音楽の
テーマに基づく3つの話

シヨパンを めぐる 3話

ピアノの詩人とも呼ばれ、ピアニストとして、作曲家としてピアノ音楽に新境地をもたらした、今日もとも親しまれている音楽家のひとり、フレデリック・シヨパンにまつわる3つのお話です。

1 計画的創作

愛人のジョルジュ・サンドと子どもたちとともに1838年冬に滞在したスペイン、マヨルカ島で完成した前奏曲集には興味深いメモが残っています。五線紙に書かれた縦書きの表に24曲を調性的秩序で並



晩年のフレデリック・シヨパン
(1849年、Louis-Auguste Bisson)

べ、未完成のものには○を、手直しする小節数の多い曲には×を付け、全体を俯瞰する創作設計図に基づいて作曲していたことが分かるのです。

さらに英雄ポロネーズについても創作エピソードがあります。音楽家人生の頂点ともいえる32歳1842年、バラード4番とスケルツォ4番もほぼ同時期に書き上げると、出版社ブライイトコプフ・ウント・ヘンテル社に「スケルツォを600フラン、バラードを600フラン、ポロネーズを500フランで」と書いています。ここには創造を芸術的な論理性でまとめあげる資質とそれを世に送り出すことにも長けた知性が窺えます。獨自性が光る3曲をまとめて送り1700フランを要求する、仕事人シヨパンの姿でもあるのです。ただどうして英雄ポロネーズが他の2曲より100フラン少ないのでしょうか。曲の長さが短いから？構造的に他曲よりも明解だから？といったちよつと楽しい疑問も湧きます。

2 人間味あふれるシヨパン

シヨパン伝に欠かせない人物はジョルジュ・サンドですが、その陰に見え隠れする娘ソランジュに目を向けると、人間味あふれるシヨパンがいます。

出合いのころサンドの息子モーリスは15歳で、母親の愛人という存在に嫉妬し

嫌いました。一方、10歳の娘ソランジュは優しく接してくれるシヨパンに親しみを感じました。サンドはいつも息子を溺愛し肯定するばかり、その一方で、自分と同じく行動的な娘を、飽きっぽくて我がままだと、何かと決めつけては突き放すのでした。

シヨパンはソランジュの天衣無縫な明るさを好み、練習することなくピアノ演奏も上達しないのに我慢強く教え、自分の演奏を聞かせ、求められるままに話し相手になりました。ソランジュの性格を冷静に見ていたシヨパンは、その早すぎる結婚に不安を感じ、サンドに意見しようとし不興を買ってしまいました。

サンドの怒りで突然の別れとなりますが、その後もソランジュに対するシヨパンの気持ちは変わることなく、まさに家族のように温かい交流を続けました。そして死の床に伏したとき、シヨパンの傍らを離れることなく付き添っていたのは、ソランジュでした。

3 シヨパンを愛でた貴族

シヨパンが作品を献呈した中で、もつとも多く贈られているのはシャルロット・ドゥ・ロスチャイルド男爵夫人です。銀行家として国家を動かすほどの大成功を収めた男爵家の一人娘シャルロットがシヨパンの弟子となったのは17歳、1832年です。

社交界を牽引する一族は何かと注目的でした。舞踏会での新しいステップが披露されても、イギリス刺繍のドレスに真珠のネックレスを付けて夫人が登場しても。ピアノ演奏に優れていたシャルロットがシヨパンに弟子入りしたときは、それに倣いたい人があまたとなりました。でもシヨパンのお気に入り弟子になるためには、音楽の才能に恵まれているばかりではなく、立ち居振る舞い、話し方、全てに洗練された趣味をまもっていなければと思われていたようです。

それは、シヨパンは貴族以上に貴族だと偶像視されていて、生まれ持って品位があると評され、最高の社交界に慣れ親しんだ人にとつてすら、あまりにも憧れの存在だったからです。

文／小坂裕子(音楽学・シヨパン研究)

約20名の作曲家が集結する
シヨパンへの大オマージュ
紀尾井レジデント・シリーズ II
川口成彦(第3回・最終回)

“シヨパンと彼の仲間たち/シヨパンへのグランド・オマージュ”

【曲目】

シヨパン

: ポロネーズト短調(遺作)
《バガニーニの思い出》イ長調
ポロネーズ第15番変ロ短調
幻想ポロネーズ変イ長調

クララ・シューマン: 即興曲イ短調

ロベルト・シューマン: スケルツォ ヘ短調

メンデルスゾーン: 前奏曲口短調(順不同)ほか全18曲(順不同)

4/26
金
19:00

※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

第34回 日本製鉄音楽賞 受賞者が決定しました

将来を期待される優れた演奏家に贈られる

フレッシュアーティスト賞 かながわまゆみ 金川真弓さん(ヴァイオリン)

正統的なスタイルを踏まえつつ、曲の本質を理解し自分の感性をしっかりと通した説得力ある演奏を聴かせられる。また柔軟にアンサンブルを作り上げる対応力と包容力も素晴らしい才能だと評価されました。2024年9月のストラディヴァリウス・コンサート、2025年2月にはピアノ・トリオ公演で紀尾井ホールに出演します。ぜひご注目ください。

クラシック音楽文化の発展に大きな貢献をされたかたに贈られる

特別賞 ひらいみつる 平井満さん(音楽プロデューサー)

数十年にわたり地道に手作りで演奏会制作を続け、商業主義に染まらない市民レベルの視点で、ベテランから若手まで内外の優れた演奏家による室内楽演奏会を企画・運営。室内楽振興に果たしてきた功績が高く評価されました。70歳を越えた今も、年間30公演を超えるコンサートの開催に携わり、室内楽のすそ野を広げています。

2024年7月に紀尾井ホールで受賞者記念コンサートを予定しています。



フレッシュアーティスト賞
金川真弓
[ヴァイオリン]



特別賞
平井満
[音楽プロデューサー]



ロビーにて左からご友人の関さま、遠藤さま、船越代表理事



終演後、マエストロ・ホーネックとともに

開館以来400万人目のお客さまをお迎えしました

1月27日(土)のKCO名曲スペシャル ニューイヤー・コンサート2024にて、記念すべき400万人目のお客さまをお迎えしました。会場ロビーでセレモニーを開催し、本公演の指揮者で紀尾井ホール室内管弦楽団 名誉指揮者ライナー・ホーネックのサイン色紙やサイン入りCDなどを贈りました。記念すべき400万人目となられた遠藤さまは「びっくりしました。こういう話は耳にしたことはありましたが、まさか自分が選ばれるとは夢にも思いませんでした」とお話しくださり、会場のお客さまから温かい拍手が贈られました。また終演後にはマエストロと記念撮影を行い、「今回初めて紀尾井ホールに足を運びました。たくさんの楽器が並んでいて、途中にコミカルな演出があったりして、とても楽しく聴きましたし、ホーネックさんが指揮をしながら弾くヴァイオリンにも感動しました」と感想を寄せていただきました。

船越代表理事は「皆さまに支えられ400万人目のご来場者をお迎えることができました。これまでのご愛顧・ご支援に深く感謝申し上げます。皆さまのご期待に沿うべく一層の努力をして参ります」と語りました。

紀尾井ホールにご支援いただいている企業および個人の方々です

紀尾井サポートシステム会員 (五十音順・「株式会社」等表記及び敬称略)

《特別協賛会員》住友商事/日鉄ソリューションズ/三井不動産/三井物産/三菱商事/三菱地所
 《みやび会員》伊藤忠商事/大島造船所/鹿島建設/商船三井/菅原/住友商事/Dr.かすみ永田町クリニック/日本郵船/丸紅/三井住友銀行/三井住友信託銀行/三井不動産/三井物産/三菱商事/三菱地所/メタルワンほか匿名2社
 《ひびき会員》大林組/オカムラ/高砂熱学工業/竹中工務店/東京きらぼしフィナンシャルグループ/山下設計
 《みどり会員》青鬼運送/赤坂維新號/今治造船/ヴォートル/エーケーディ/荏原冷熱システム/ザ・キャピトルホテル 東急/三協/清水建設/上智大学/西武リアルティソリューションズ/大成建設/千代田商事/テイスト・ライフ/東芝ライテック/永田音響設計/ニュー・オートニ/ハウス食品グループ本社/パナソニック/みずほ証券/三菱UFJ銀行/三菱UFJ信託銀行/三菱UFJモルガン・スタンレー証券/ミュージション/明治座舞台/ヤマハサウンドシステム/ワークショップ21
 《あおい会員》青木陽介/浅沼雄二/浅見 恵/石崎智代/磯部治生/伊藤真理子/井上善雄/岩城宏斗司/上野真志/馬屋原貴行/大内裕子/大垣尚司/大久保なほ子/太田清史/小川 保/小倉 ヒロ/ミハエル/糟谷敏秀/片山國正/片山能輔/加藤巻恵/加藤優一/神川典久/川口祥代/川島知恵/菊池恒雄/木谷 昭/楠野貞夫/栗山信子/河野妙妃/小坂部恵子/齋藤公善/齋藤幸子/坂詰貴司/坂根和子/佐久間庸行/佐伯いこ子/澤田紀子/潮崎通康/柴田雅美/清水 正/清水康子/白土英明/末岡明武/鈴木順一/鈴木 亮/高下謙吉/田中 進/戸田純也/外山雄三/中塚一雄/中西達郎/中野洋子/中村健司/中山昌樹/名取正夫/原田清朗/日原洋文/冬木寛義/北條哲也/堀川将史/牧本恵美子/松枝 力/松尾芳樹/松本美恵/丸井正樹/水口美輝/養輪永世/宮島正次/宮田宜子/宮武悦子/宮原 薫/宮本信幸/陸田 実/村上喜代次/村上敏子/持留宗一郎/八木一夫/八木晶子/矢田部靖子/山内寿実/山口 聡/横手 聡/渡邊一夫/渡辺弘次/渡辺由香里
 ほか匿名50名 計254口
 (2024年2月1日現在)

特別支援会員 (五十音順・「株式会社」等表記略)

アステック入江/五十鈴/NS建材薄板/NSユニテッド海運/NSユニテッド内航海運/エヌエスリース/エヌテック/王子製鉄/大阪製鐵/丸鋼工業/草野産業/黒崎播磨/合同製鐵/鴻池運輸/小松シヤリング/山九/産業振興/三晃金属工業/サンユウ/三洋海運/山陽特殊製鋼/ジオスター/新日本電工/スガテック/大同特殊鋼/大和製鐵/高砂鐵工/高田工業所/鶴見鋼管/DNPエリオ/テツゲン/電機資材/東海鋼材工業/東邦シートフレーム/トビー工業/日垂鋼業/日鉄SGワイヤ/日鉄エンジニアリング/日鉄片倉鋼管/日鉄環境/日鉄ケミカル&マテリアル/日鉄建材/日鉄鋼管/日鉄鋁業/日鉄工材/日鉄鋼板/日鉄興和不動産/日鉄スチール/日鉄ステンレス/日鉄ステンレス鋼管/日鉄精圧品/日鉄精密加工/日鉄総研/日鉄ソリューションズ/日鉄テクノロジー/日鉄テックスエンジニア/日鉄ドラム/日鉄物産/日鉄物流/日鉄プロセッシング/日鉄保険サービス/日鉄ボルテン/日鉄溶接工業/日鉄レールウェイテクノス/日本金属/日本触媒/濱田重工/富士鉄鋼センター/不動テトラ/北海鋼機/幕張テクノガーデン/三島光産/宮崎精鋼/吉川工業/ワコースチール
 日本製鉄
 (2024年2月1日現在)

フォトレポート

11.24(金)・25(土) ベートーヴェン ピアノソナタサイクル・イン・ジャパン III・IV
イゴール・レヴィット

昨年からの全4回にわたるベートーヴェンのピアノソナタサイクル、今回は後半2公演。特に25日のIVで取り上げられた最後のソナタ3曲では、後期作品ならではの多面性を持つ作品がレヴィットの濃やかな解釈により新たな魅力を与えられ、衝撃が走りました。



© 逢坂聡

12.13(水) 三菱地所 presents 協賛：三菱地所株式会社
紀尾井 明日への扉 第37回 タレイア・カルテット(弦楽四重奏)

アンケートより

高い集中力と自発性に富んだ素晴らしい演奏でした。特にシューベルトでは、魂が天国にのぼっていくような幸せな瞬間が訪れました。タレイア・カルテット、是非また聴きたいと思います。



© ヒダキトモコ

12.19(火) 音楽でつづる文学6 源氏物語 一夕顔―

前半に「源氏物語」の概説と、今回のテーマとなる登場人物、夕顔について解説があったあと、夕顔を題材とした邦楽の4作品を鑑賞しました。福田栄香さんによる「うた語り」は、既存の曲の弾き歌いの合間に朗読があり、源氏物語の世界に浸り夕顔の心情に迫るひと時となりました。



© ヒダキトモコ

12.21(木) 紀尾井レジデント・シリーズ III 青木尚佳(第1回)

KCO第130回定期演奏会で見事な演奏を聴かせてくれた青木尚佳さん。イザイの無伴奏ヴァイオリン・ソナタ全曲はヴァイオリニストとしてもひととき覚悟を要するプログラムですが、深い作品理解を感じさせる演奏でその実力がさらに際立ち、早くも第2回が待ち遠しいとたくさんのお声をいただきました。次回もどうぞお楽しみに。



© 堀田力丸

1.17(水) ジョナタン・フルネル ピアノ・リサイタル

アンケートより

想像以上に感無量でした。フルネルさんの確固たる音楽構想から生まれる表現力に、ただただ感動！音も響きも信じられないくらい美しく、繊細さもダイナミックさも剛柔全てを持ち合わせた類稀なる逸材だと思います。



© 武藤章

今号の表紙

『ティンパニとランタンキュラス』
[協力] 花/レミルフォイユドゥリベルテ 紀尾井町店
ティンパニ/紀尾井ホール所有

撮影に使用したティンパニは紀尾井ホール所有のもので、ドレスデン式と言われるタイプ。ペダル操作で音の高さを変えることができ、大きさの違う複数を組み合わせることで1オクターヴ以上の音を奏することができます。幾重にも重なった花びらが美しく、コロンとした花のランタンキュラスと姿が似ているように見えて、今回組み合わせました。「楽器と花」シリーズは今号が最終回です。次号からは、「ホールと支える人」が表紙を飾ります。

チケットのお申込み

紀尾井ホールウェブチケット <https://kioihall.jp/tickets>

お知らせ

2023年12月発売の主催公演より
チケットぴあ、イープラス(クラシック公演のみ)に加え、
CNプレイガイド(電話予約:0570-08-9999/10:00~18:00年中無休)
でもチケットを取り扱っています。

紀尾井ホール

公益財団法人 日本製鉄文化財団

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町6番5号

TEL.03-5276-4500(代表) FAX.03-5276-4527

公演の最新情報などは
こちら



<https://kioihall.jp>